

1 令和3年産花きの作付（収穫）面積及び出荷量の動向

作付（収穫）面積は、切り花類が1万3,280ha（対前年産比99%）、球根類が239ha（同94%）、鉢ものの類が1,474ha（同98%）、花壇用苗ものの類が1,277ha（同98%）となった。

出荷量は、切り花類が32億4,900万本（同100%）、球根類が7,420万球（同101%）、鉢ものの類が1億8,860万鉢（同99%）、花壇用苗ものの類が5億5,440万本（同98%）となった。

表1 令和3年産花きの類別作付（収穫）面積及び出荷量（全国）

類別	作付（収穫）面積	出荷量	対前年産比	
			作付（収穫）面積	出荷量
	ha	万本（球・鉢）	%	%
切り花類	13,280	324,900	99	100
球根類	239	7,420	94	101
鉢ものの類	1,474	18,860	98	99
花壇用苗ものの類	1,277	55,440	98	98

注：1 球根類及び鉢ものの類は、収穫面積である。

2 出荷量の単位は、切り花類及び花壇用苗ものの類が万本、球根類が万球、鉢ものの類が万鉢である。

2 類別・品目別の作付（収穫）面積及び出荷量の動向

(1) 切り花類

作付面積は1万3,280haで、前年産に比べ130ha（1%）減少した。これは、生産者の高齢化等により規模縮小等があったためである。

出荷量は32億4,900万本で、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた前年産並みとなった。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が18%で最も高く、次いで沖縄県が8%、静岡県、福岡県及び長野県がそれぞれ5%となっている。

品目別出荷量割合は、きくが40%で最も高く、次いで切り枝、カーネーション及びばらがそれぞれ6%、ガーベラが4%となっている。

図1 切り花類の作付面積及び出荷量の推移

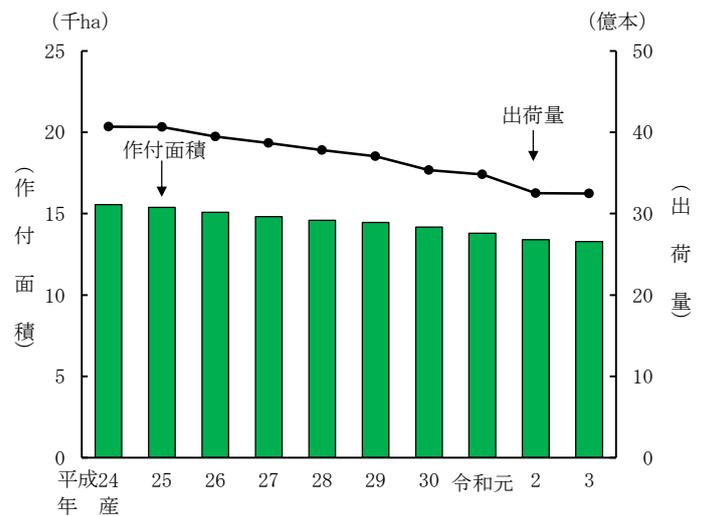


図2 切り花類の都道府県別出荷量割合

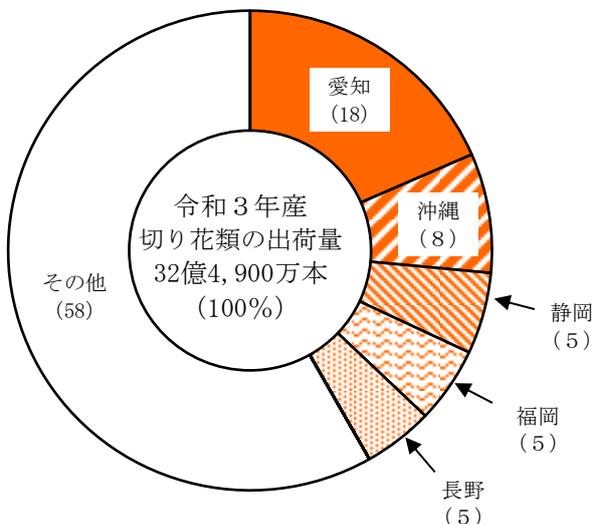
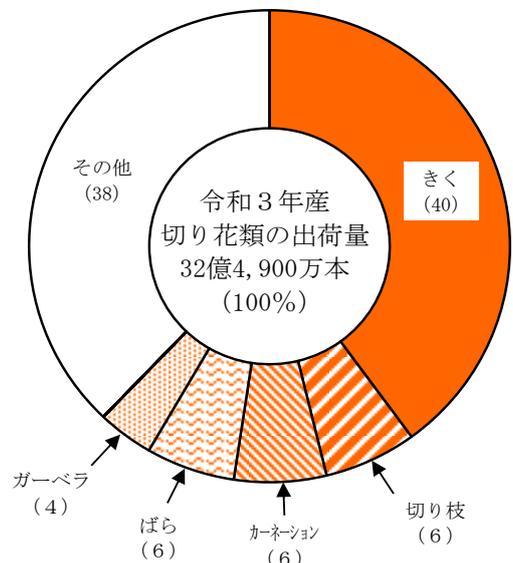


図3 切り花類の品目別出荷量割合



注：割合については、表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある（以下図44まで同じ。）。

表2 令和3年産切り花類の作付面積及び出荷量（全国）

類・品目	作付面積	出荷量	対前年産比	
			作付面積	出荷量
	ha	万本	%	%
切り花類	13,280	324,900	99	100
うちき	4,258	129,800	99	100
カーネーション	252	20,150	96	98
ばら	284	19,440	98	97
りんどう	413	7,540	101	92
宿根かすみそう	201	5,080	103	109
スターチス	167	12,240	99	104
ガーベラ	78	12,260	97	97
トルコギキョウ	402	8,540	98	97
ゆり	659	11,480	100	99
アルストロメリア	80	5,620	101	103
切り葉	573	9,160	99	100
切り枝	3,621	20,250	100	98

注：切り花類の値は、表章されている内訳品目以外の品目を含んだ合計である。

ア きく

作付面積は4,258haで、前年産に比べ56ha（1%）減少した。

出荷量は12億9,800万本で、前年産並みとなった。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が34%で最も高く、次いで沖縄県が18%、福岡県が6%、鹿児島県が5%、長崎県が4%となっており、この5県で全国の約7割を占めている。

図4 きくの作付面積及び出荷量の推移

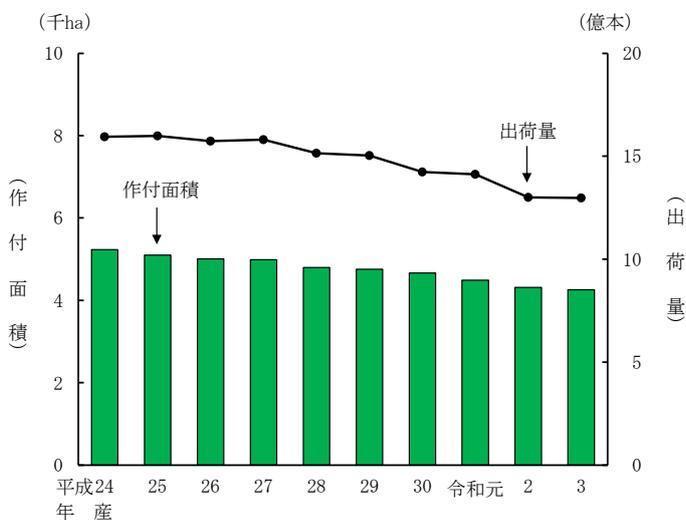
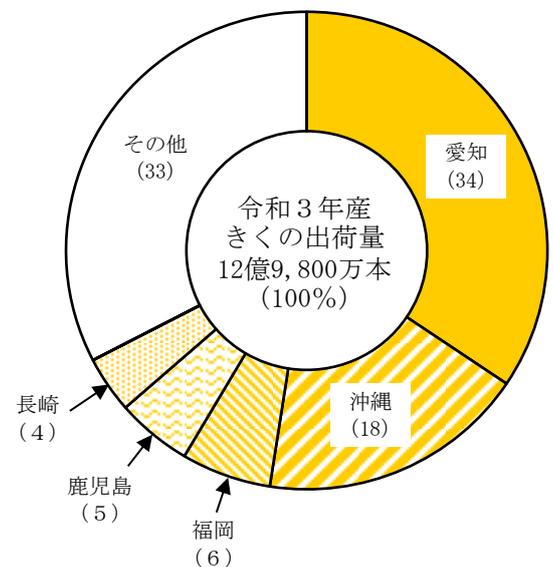


図5 きくの都道府県別出荷量割合



イ カーネーション

作付面積は252haで、前年産に比べ10ha（4％）減少した。

出荷量は2億150万本で、前年産に比べ460万本（2％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、長野県が22％で最も高く、次いで愛知県が19％、北海道が10％、兵庫県及び千葉県がそれぞれ9％となっており、この5道県で全国の約7割を占めている。

図6 カーネーションの作付面積及び出荷量の推移

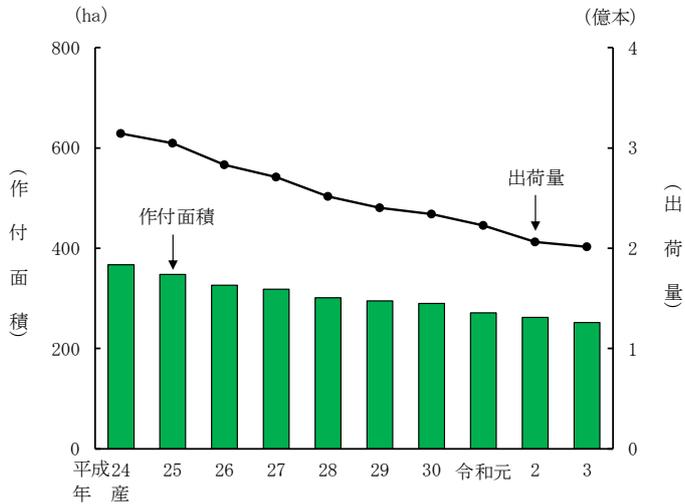
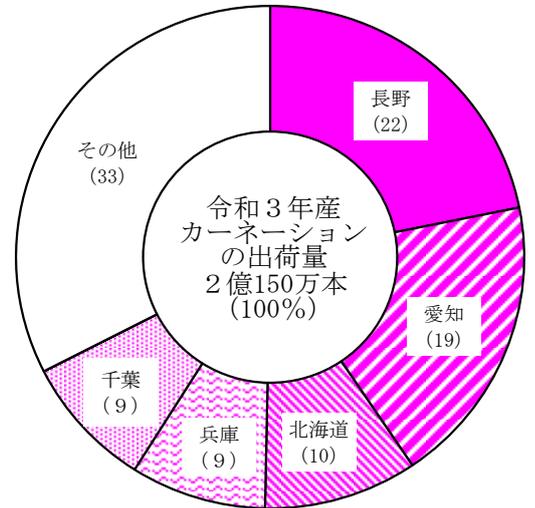


図7 カーネーションの都道府県別出荷量割合



ウ ばら

作付面積は284haで、前年産に比べ7ha（2％）減少した。

出荷量は1億9,440万本で、前年産に比べ640万本（3％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が17％で最も高く、次いで静岡県が10％、山形県及び福岡県がそれぞれ7％、愛媛県が6％となっている。

図8 ばらの作付面積及び出荷量の推移

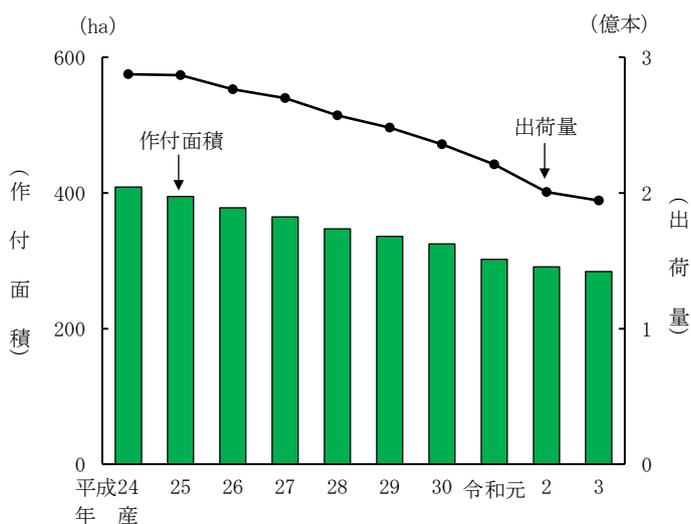
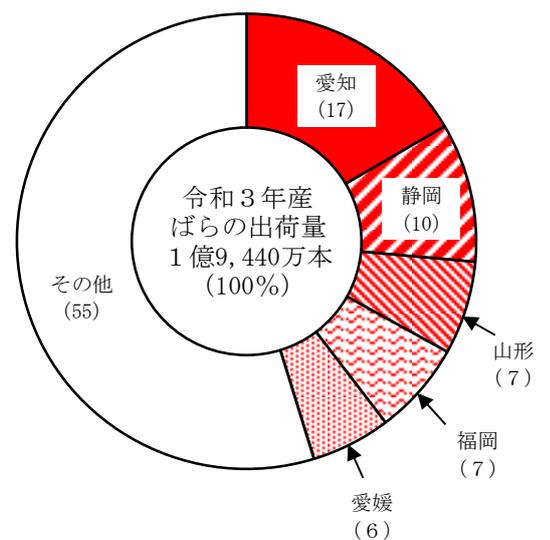


図9 ばらの都道府県別出荷量割合



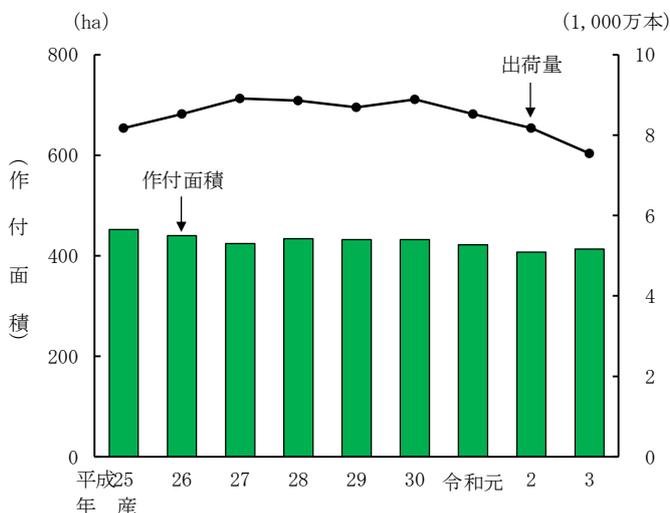
エ りんどう

作付面積は413haで、前年産に比べ6 ha（1%）増加した。

出荷量は7,540万本で、前年産に比べ630万本（8%）減少した。

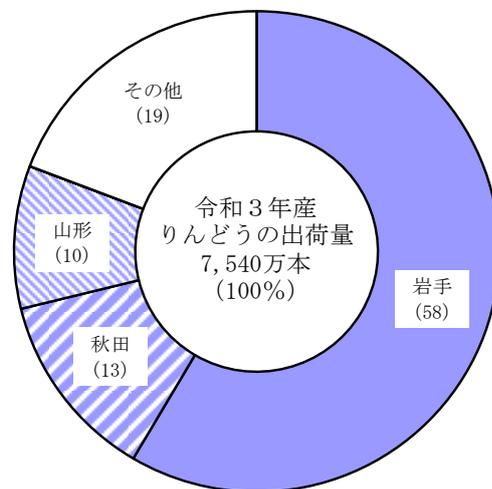
都道府県別出荷量割合は、岩手県が58%で最も高く、次いで秋田県が13%、山形県が10%となっており、この3県で全国の約8割を占めている。

図 10 りんどうの作付面積及び出荷量の推移



注： 調査対象品目の要件を満たしたため、平成25年産から「りんどう」を調査対象に追加した。

図 11 りんどうの都道府県別出荷量割合



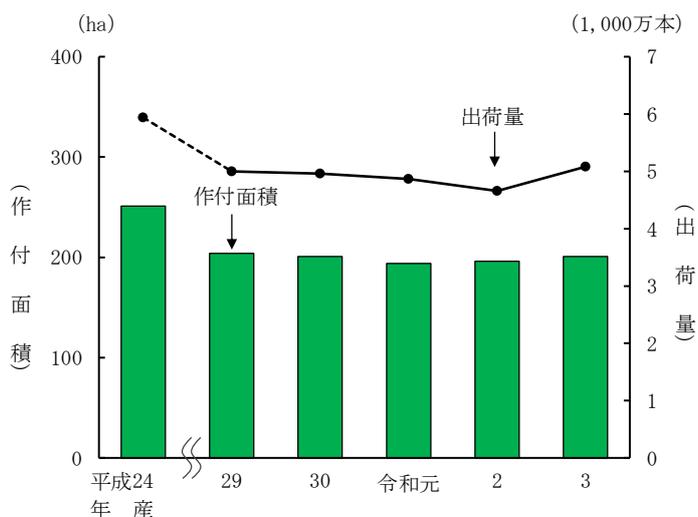
オ 宿根かすみそう

作付面積は201haで、前年産に比べ5 ha（3%）増加した。

出荷量は5,080万本で、前年産に比べ420万本（9%）増加した。

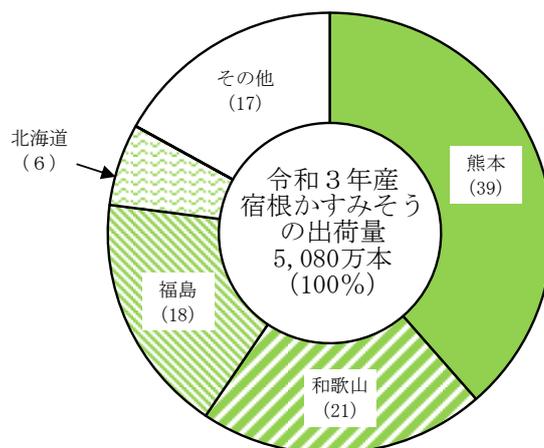
都道府県別出荷量割合は、熊本県が39%で最も高く、次いで和歌山県が21%、福島県が18%、北海道が6%となっており、この4道県で全国の約8割を占めている。

図 12 宿根かすみそうの作付面積及び出荷量の推移



注：「宿根かすみそう」については、調査対象品目の要件を満たさなくなったことにより平成25年産から調査対象から外れたものの、平成29年産から再び要件を満たしたため、調査対象に追加した。

図 13 宿根かすみそうの都道府県別出荷量割合



カ スターチス

作付面積は167haで、前年産に比べ1ha（1％）減少した。

出荷量は1億2,240万本で、前年産に比べ440万本（4％）増加した。

都道府県別出荷量割合は、和歌山県が55％で最も高く、次いで北海道が26％となっており、この2道県で全国の約8割を占めている。

図 14 スターチスの作付面積及び出荷量の推移

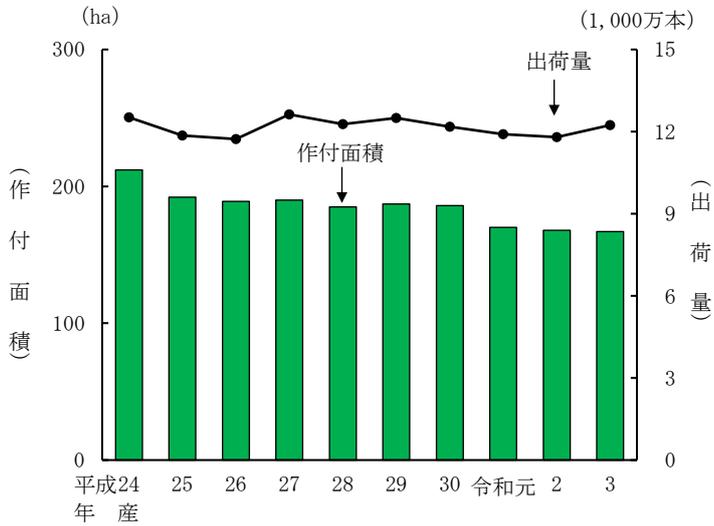
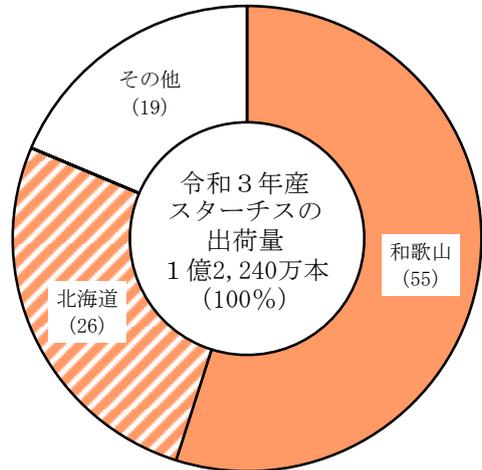


図 15 スターチスの都道府県別出荷量割合



キ ガーベラ

作付面積は78haで、前年産に比べ2ha（3％）減少した。

出荷量は1億2,260万本で、前年産に比べ440万本（3％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、静岡県が43％で最も高く、次いで福岡県が13％、和歌山県が9％、愛知県が7％、長崎県が5％となっており、この5県で全国の約8割を占めている。

図 16 ガーベラの作付面積及び出荷量の推移

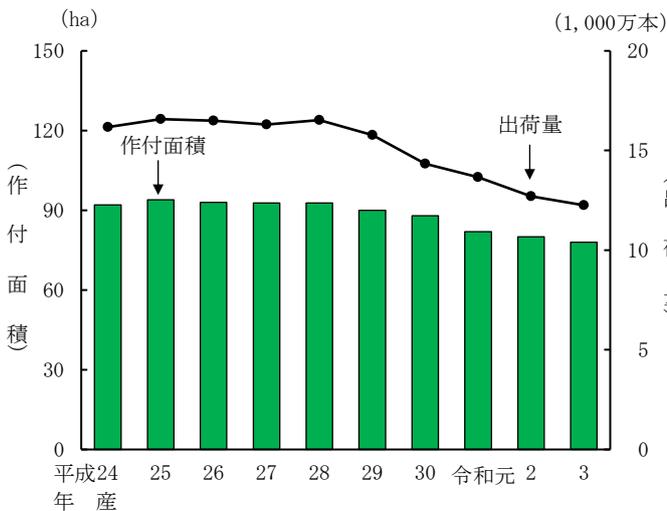
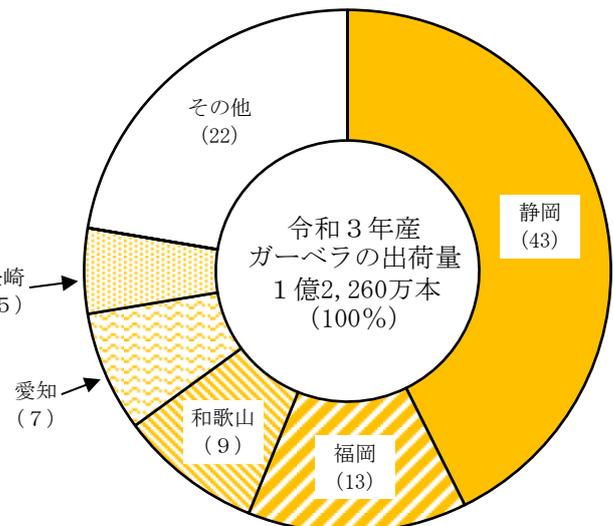


図 17 ガーベラの都道府県別出荷量割合



ク トルコギキョウ

作付面積は402haで、前年産に比べ9ha（2％）減少した。

出荷量は8,540万本で、前年産に比べ260万本（3％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、長野県が15％で最も高く、次いで熊本県が12％、福岡県が8％、静岡県及び山形県がそれぞれ5％となっている。

図 18 トルコギキョウの作付面積及び出荷量の推移

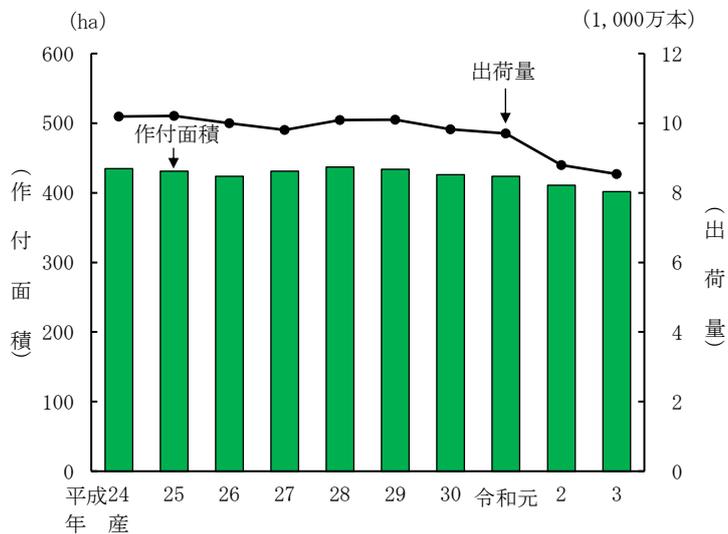
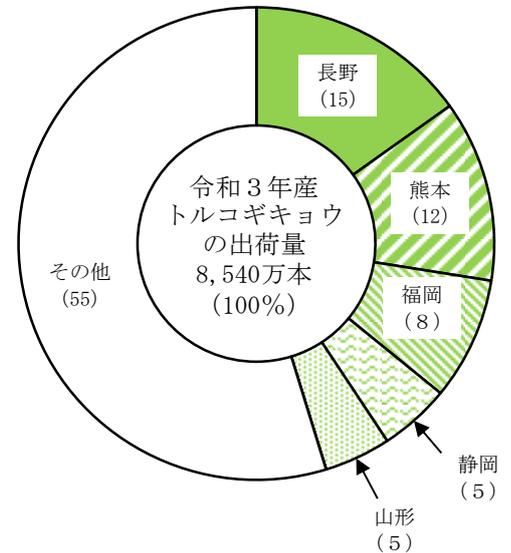


図 19 トルコギキョウの都道府県別出荷量割合



ケ ゆり

作付面積は659haで、前年産並みとなった。

出荷量は1億1,480万本で、前年産に比べ70万本（1％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、埼玉県が21％で最も高く、次いで新潟県及び高知県がそれぞれ10％、千葉県が6％、北海道が5％となっており、この5道県で全国の約5割を占めている。

図 20 ゆりの作付面積及び出荷量の推移

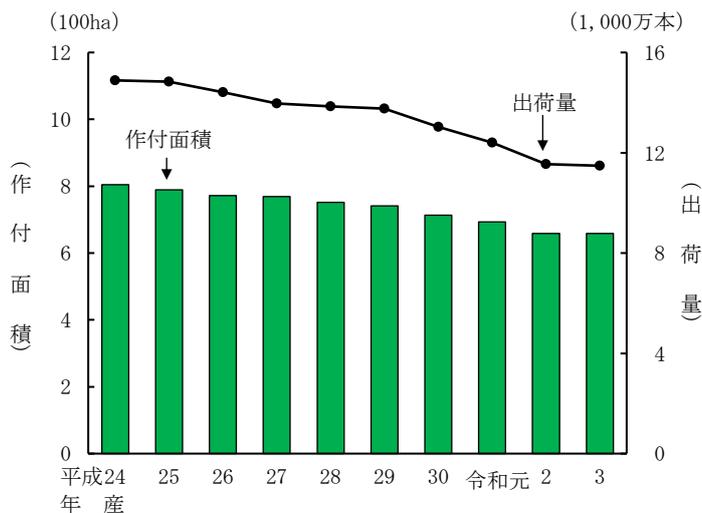
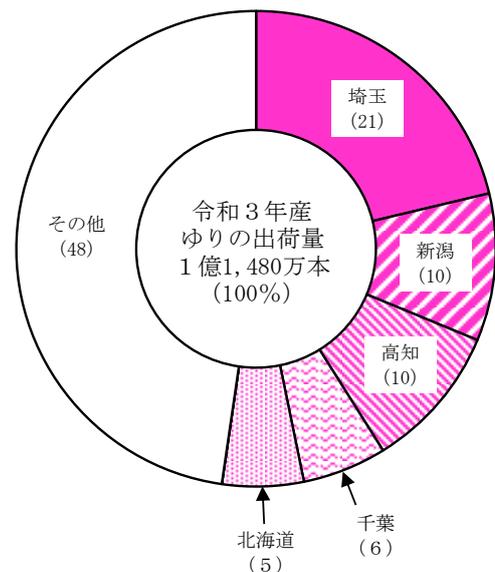


図 21 ゆりの都道府県別出荷量割合



コ アルストロメリア

作付面積は80haで、前年産に比べ1 ha（1％）増加した。

出荷量は5,620万本で、前年産に比べ190万本（3％）増加した。

都道府県別出荷量割合は、長野県が37％で最も高く、次いで愛知県が20％、山形県が11％、北海道が10％、大分県が5％となっており、この5道県で全国の約8割を占めている。

図 22 アルストロメリアの作付面積及び出荷量の推移

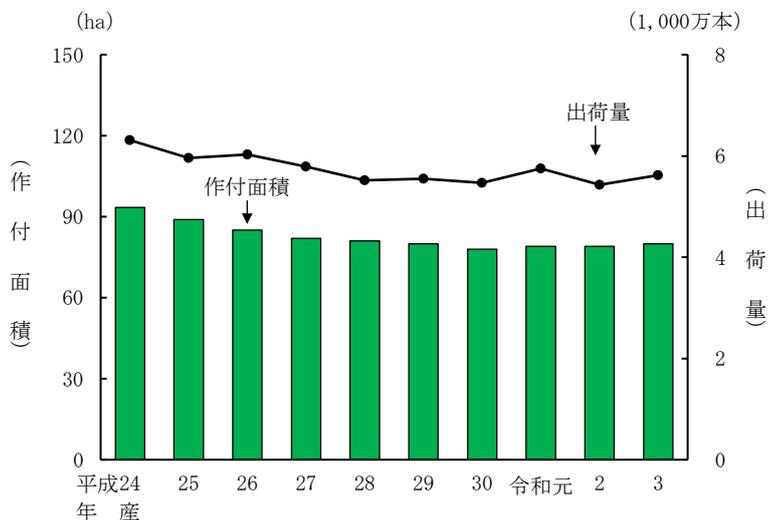
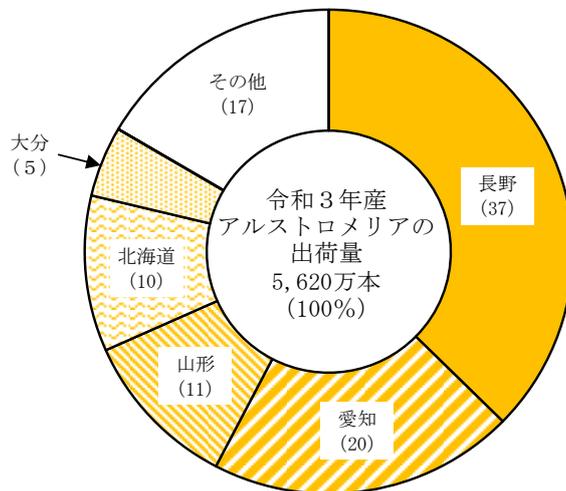


図 23 アルストロメリアの都道府県別出荷量割合



サ 切り葉

作付面積は573haで、前年産に比べ8 ha（1％）減少した。

出荷量は9,160万本で、前年産並みとなった。

都道府県別出荷量割合は、東京都が32％で最も高く、次いで沖縄県が20％、鹿児島県が15％、静岡県が7％、千葉県が4％となっており、この5都県で全国の約8割を占めている。

図 24 切り葉の作付面積及び出荷量の推移

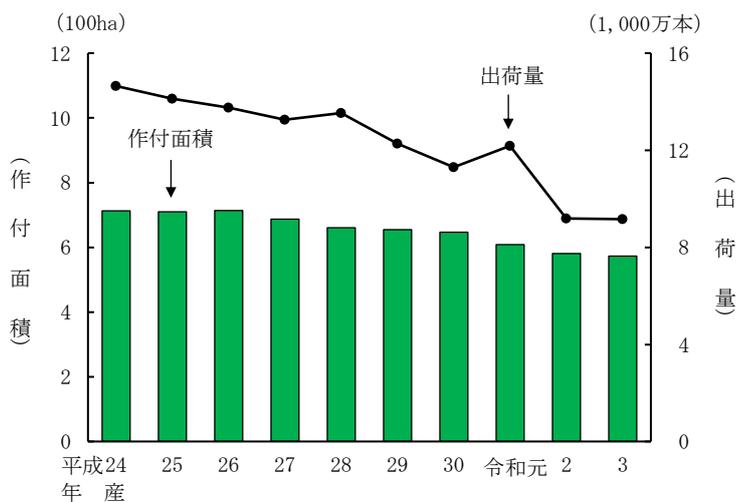
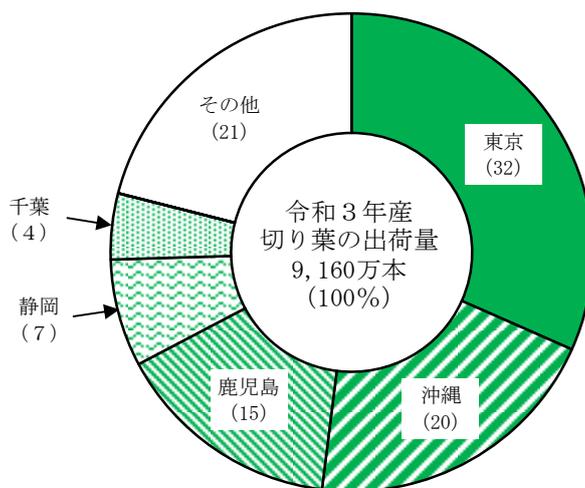


図 25 切り葉の都道府県別出荷量割合



シ 切り枝

作付面積は3,621haで、前年産並みとなった。

出荷量は2億250万本で、前年産に比べ360万本（2%）減少した。

都道府県別出荷量割合は、静岡県が16%で最も高く、次いで茨城県が15%、和歌山県が7%、宮崎県が5%、愛媛県が4%となっている。

図 26 切り枝の作付面積及び出荷量の推移

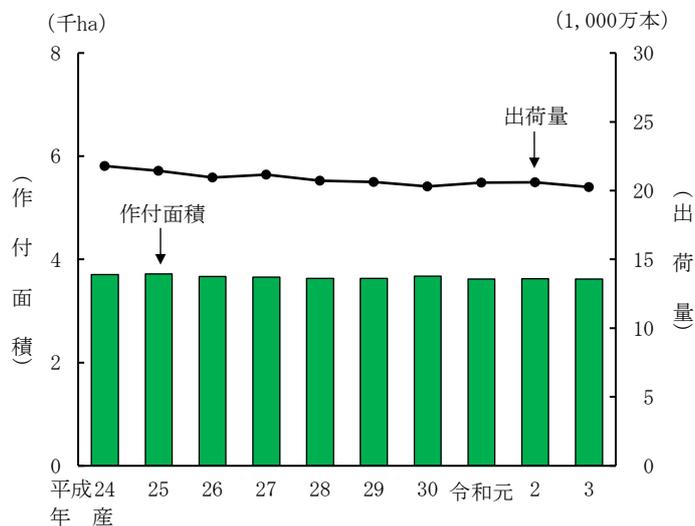
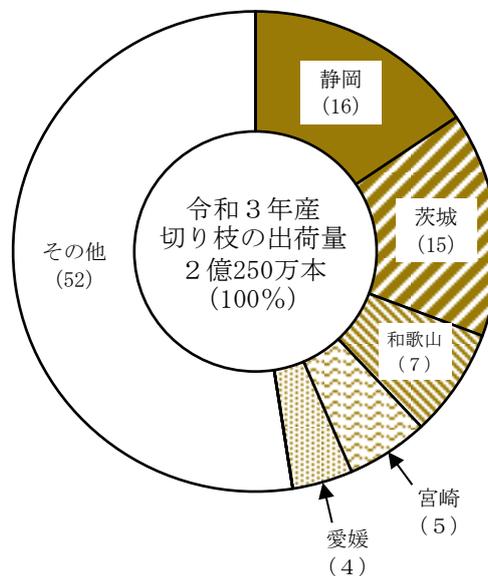


図 27 切り枝の都道府県別出荷量割合



(2) 球根類

収穫面積は239haで、前年産に比べ16ha（6％）減少した。これは、生産者の高齢化等により規模縮小等があったためである。

出荷量は7,420万球で、前年産に比べ50万球（1％）増加した。これは、収穫面積は減少したものの、天候に恵まれたことや1a当たり出荷量の高い品目への転換があったためである。

都道府県別出荷量割合は、鹿児島県が22%で最も高く、次いで富山県が19%、新潟県が18%、宮崎県が8%となっており、この4県で全国の約7割を占めている。

図 28 球根類の収穫面積及び出荷量の推移

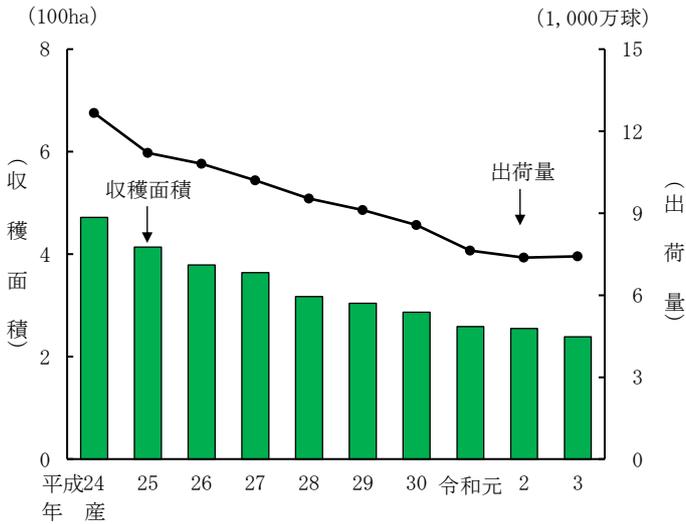


図 29 球根類の都道府県別出荷量割合

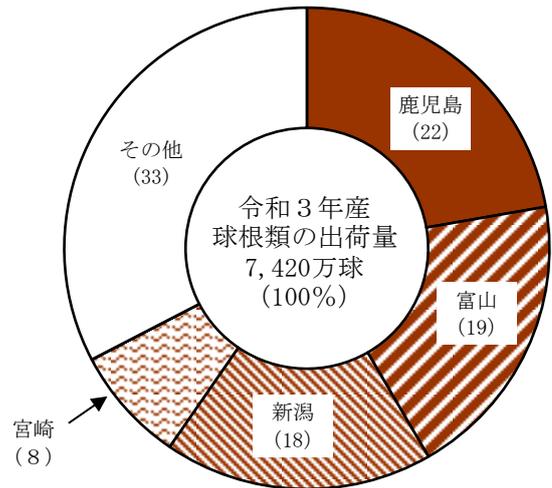


表 3 令和3年産球根類の収穫面積及び出荷量（全国）

類 別	収 穫 面 積	出 荷 量	対 前 年 産 比	
			収 穫 面 積	出 荷 量
球 根 類	ha 239	万球 7,420	% 94	% 101

(3) 鉢ものの類

収穫面積は1,474haで、前年産に比べ29ha（2%）減少した。これは、生産者の高齢化等により規模縮小等があったためである。

出荷量は1億8,860万鉢で、前年産に比べ240万鉢（1%）減少した。これは、小鉢化傾向により1a当たり出荷量はやや上昇したが、収穫面積の減少等があったためである。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が26%で最も高く、次いで埼玉県が9%、静岡県及び岐阜県がそれぞれ7%、千葉県が5%となっており、この5県で全国の約5割を占めている。

品目別出荷量割合は、観葉植物が23%で最も高く、次いで花木類が18%、シクラメンが8%、洋ラン類が6%となっている。

図30 鉢ものの類の収穫面積及び出荷量の推移

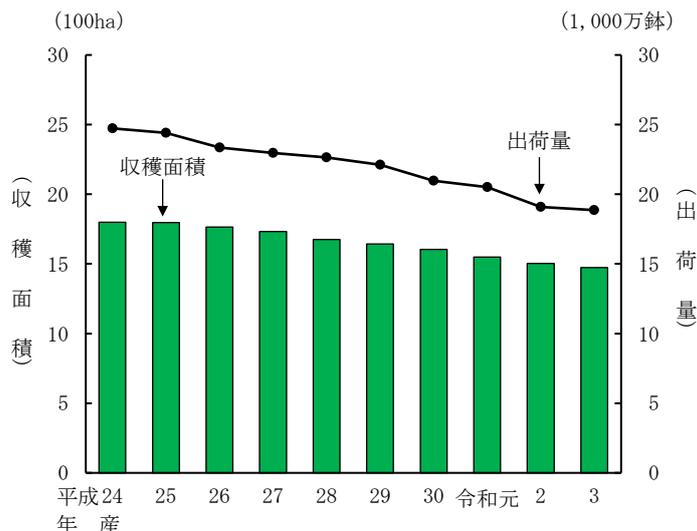


図31 鉢ものの類の都道府県別出荷量割合

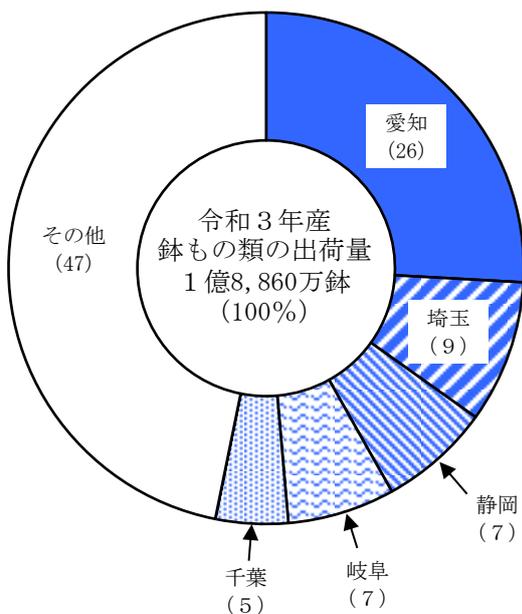


図32 鉢ものの類の品目別出荷量割合

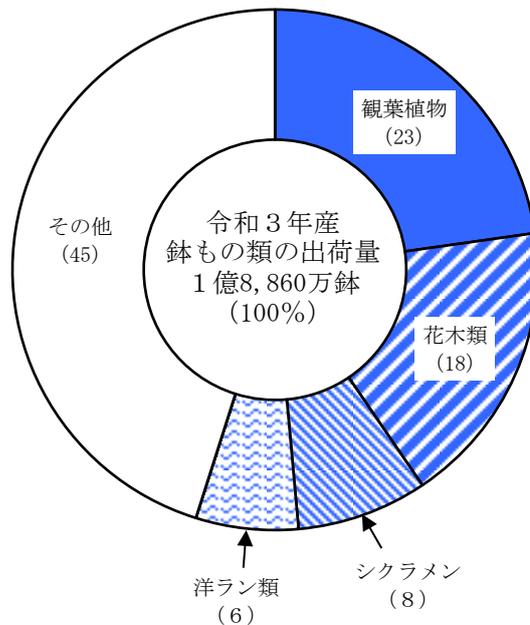


表4 令和3年産鉢ものの類の収穫面積及び出荷量（全国）

類・品目	収穫面積	出荷量	対前年産比	
			収穫面積	出荷量
鉢ものの類	ha	万鉢	%	%
うちシクラメン	1,474	18,860	98	99
洋ラン類	160	1,520	99	99
観葉植物	170	1,190	98	97
花木類	265	4,290	101	104
	301	3,350	96	99

注：鉢ものの類の値は、表章されている内訳品目以外の品目を含んだ合計である。

ア シクラメン

収穫面積は160haで、前年産に比べ2 ha（1%）減少した。

出荷量は1,520万鉢で、前年産に比べ20万鉢（1%）減少した。

都道府県別出荷量割合は、長野県が14%で最も高く、次いで愛知県が11%、千葉県が6%、茨城県及び栃木県がそれぞれ5%となっている。

図 33 シクラメンの収穫面積及び出荷量の推移

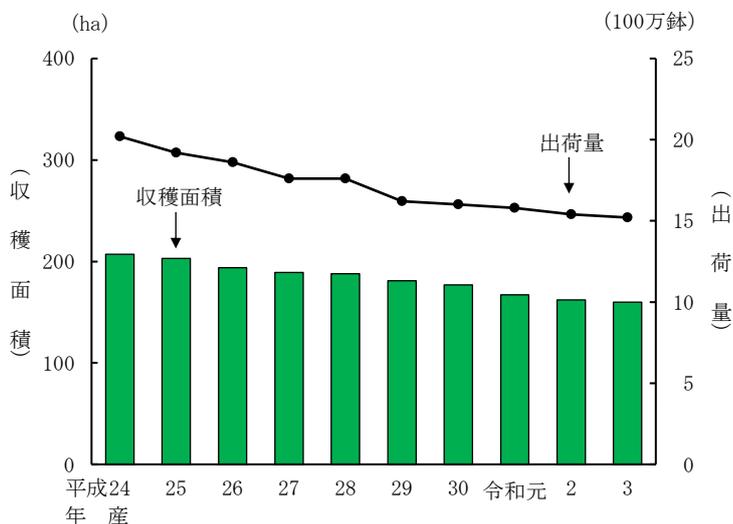
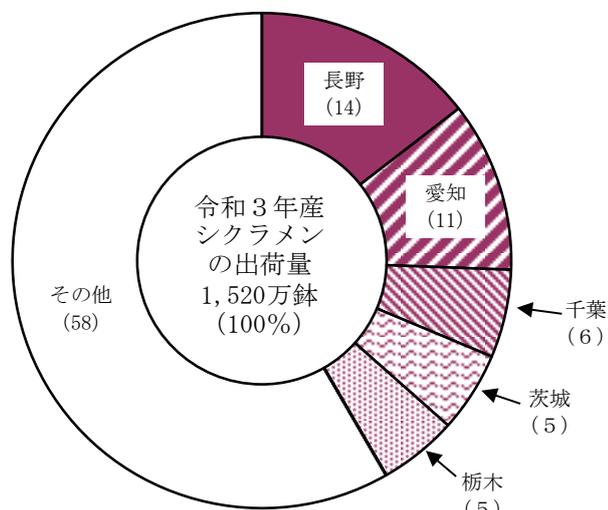


図 34 シクラメンの都道府県別出荷量割合



イ 洋ラン類

収穫面積は170haで、前年産に比べ4 ha（2%）減少した。

出荷量は1,190万鉢で、前年産に比べ40万鉢（3%）減少した。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が25%で最も高く、次いで熊本県が10%、福岡県が8%、千葉県及び山梨県がそれぞれ6%となっており、この5県で全国の約6割を占めている。

図 35 洋ラン類の収穫面積及び出荷量の推移

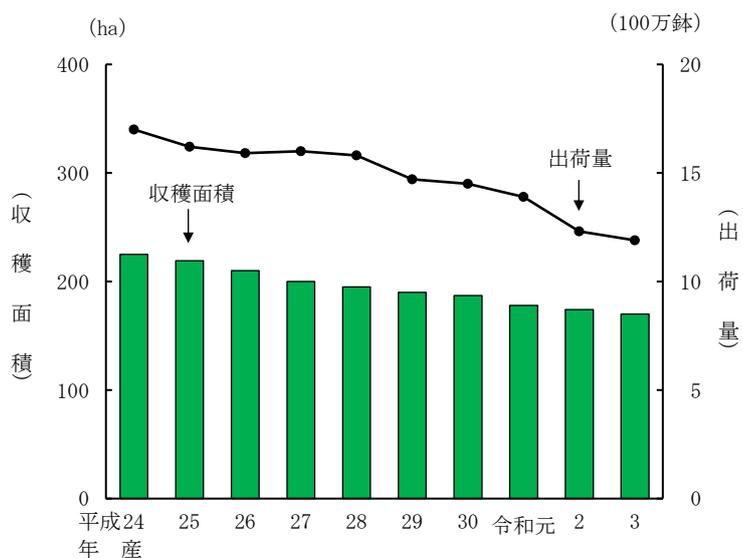
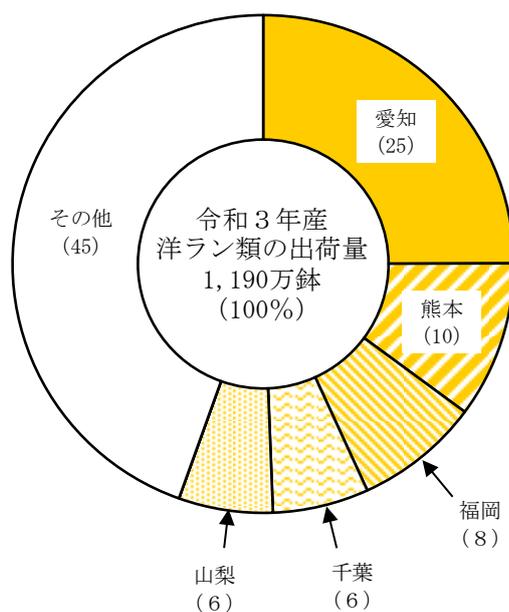


図 36 洋ラン類の都道府県別出荷量割合



ウ 観葉植物

収穫面積は265haで、前年産に比べ3ha（1%）増加した。

出荷量は4,290万鉢で、前年産に比べ150万鉢（4%）増加した。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が50%で最も高く、次いで静岡県が12%、三重県が8%、鹿児島県が4%、千葉県が3%となっており、この5県で全国の約8割を占めている。

図 37 観葉植物の収穫面積及び出荷量の推移

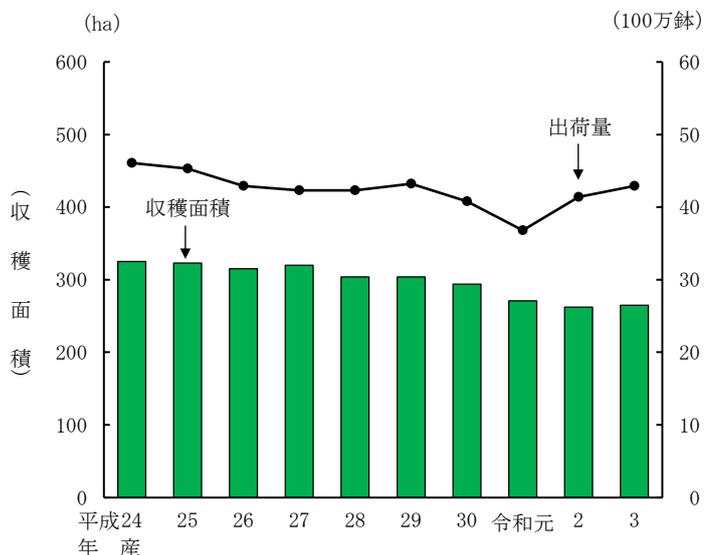
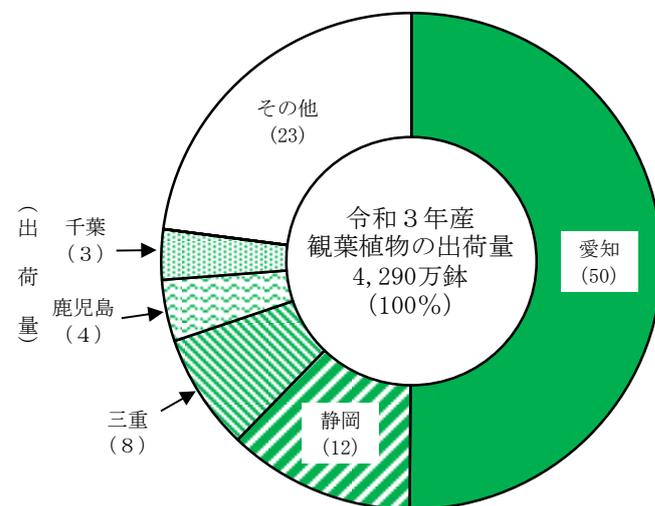


図 38 観葉植物の都道府県別出荷量割合



エ 花木類

収穫面積は301haで、前年産に比べ12ha（4%）減少した。

出荷量は3,350万鉢で、前年産に比べ30万鉢（1%）減少した。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が23%で最も高く、次いで新潟県が17%、岐阜県が15%、埼玉県が7%、静岡県が6%となっており、この5県で全国の約7割を占めている。

図 39 花木類の収穫面積及び出荷量の推移

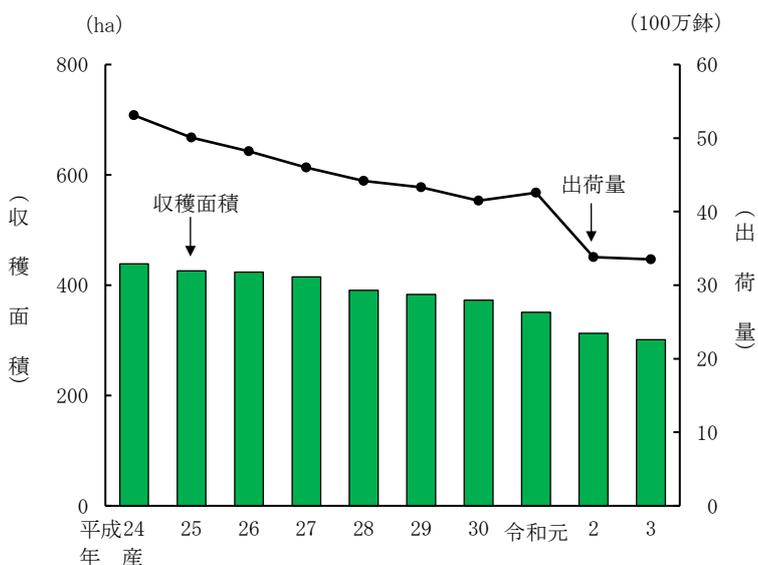
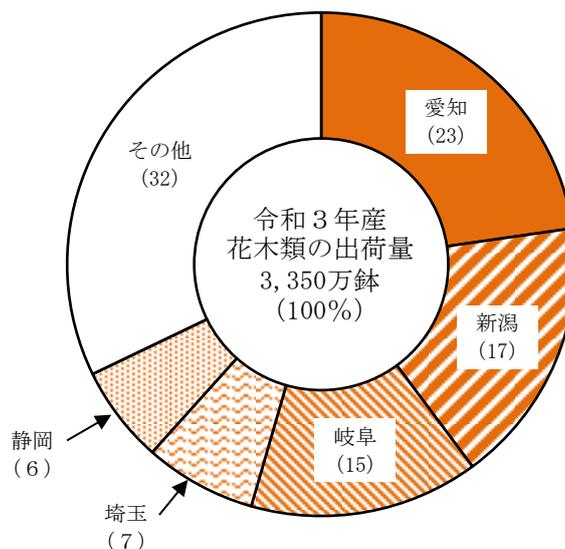


図 40 花木類の都道府県別出荷量割合



(4) 花壇用苗もの類

作付面積は1,277haで、前年産に比べ24ha（2％）減少した。これは、生産者の高齢化や後継者不足等により規模縮小等があったためである。

出荷量は5億5,440万本で、前年産に比べ1,120万本（2％）減少した。これは、作付面積の減少等があったためである。

都道府県別出荷量割合は、埼玉県が9％で最も高く、次いで愛知県が8％、千葉県が7％、福岡県及び茨城県がそれぞれ5％となっている。

図 41 花壇用苗もの類の作付面積及び出荷量の推移

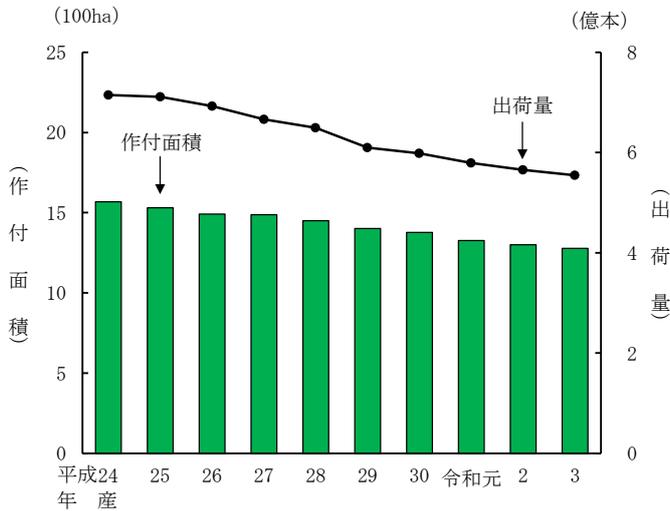
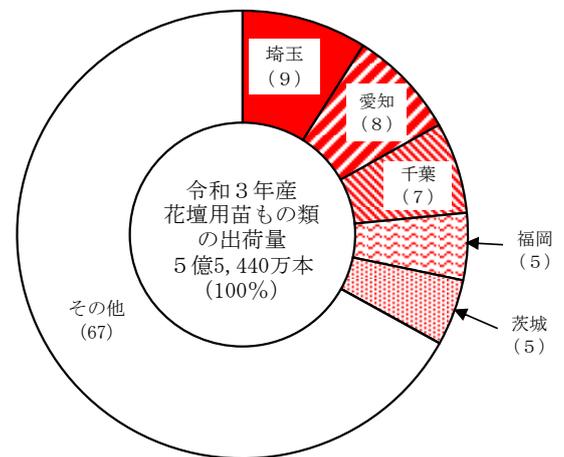


図 42 花壇用苗もの類の都道府県別出荷量割合



このうち、パンジーの作付面積は239haで、前年産に比べ4ha（2％）減少した。

出荷量は1億900万本で、前年産に比べ440万本（4％）減少した。

都道府県別出荷量割合は埼玉県が8％で最も高く、次いで神奈川県が7％、愛知県及び奈良県がそれぞれ6％、福岡県が5％となっている。

図 43 パンジーの作付面積及び出荷量の推移

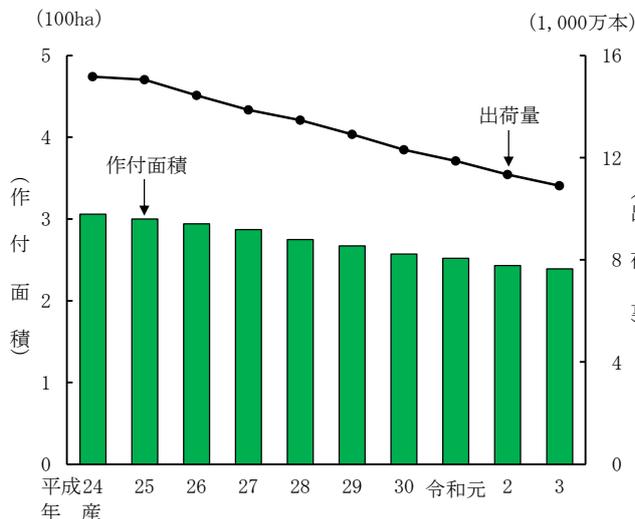


図 44 パンジーの都道府県別出荷量割合

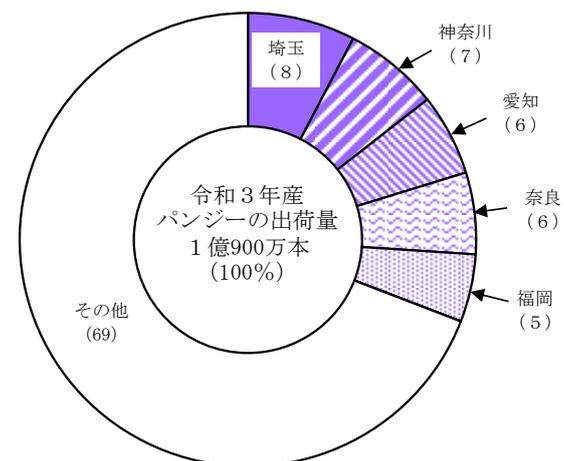


表 5 令和3年産花壇用苗もの類の作付面積及び出荷量（全国）

類・品目	作付面積	出荷量	対前年産比	
			作付面積	出荷量
花壇用苗もの類	1,277	55,440	98	98
うちパンジー	239	10,900	98	96

注：花壇用苗もの類の値は、表章されている内訳品目以外の品目を含んだ合計である。